



強い北寄りの風が吹き付けて池面は波立っていました。いつも大群でいたカンムリカイツブリは帰りがけに1羽だけ見ただけです。オオバンやカルガモなどは風の当たりにくいカワウの島や取水口の風下に逃げていました。上空には番と思われるミサゴが飛んできたらかラスが突っかかっていきました。



**ウメ膨らむ(紅梅)**

中国原産で、サクラのように葉に先立って花を咲かせます。万葉集には、ウメを題材にした歌があるそうです。



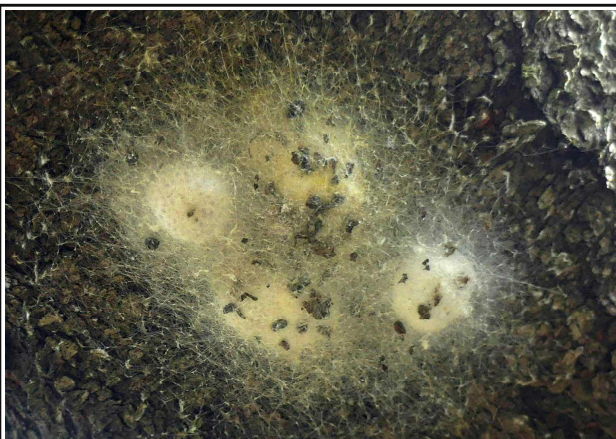
**シキザクラ**

10月頃から咲くので十月桜とも。春にも咲く二季咲きで、春よりも冬によく咲くようです。マメザクラとエドヒガンを原種にして江戸時代に園芸品種として生まれました。



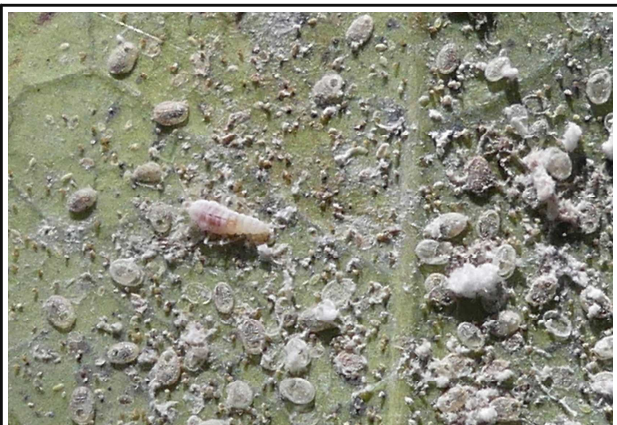
**ニホンタンポポ**

2月頃に咲くのはセイヨウタンポポが多いのですが、開花の条件がそろったのか咲き始めていました在来種です。



**ジョロウグモ卵のう**

一カ所に4つもかたまって産み付けられました。隣同士接する場所では糸を節約できるからだろう、と思われます。



**コナカゲロウ類幼虫**

イスノキの葉裏にカイガラムシ類がいた中に紡錘形をしたものがありました。拡大したら足が見え昆虫であることが分かりました。



### イシムカデの一種

サクラの根方の枯れ葉の陰でじっとしていました。体長30ミリのほどで小さな土壤生物を捕食しています。



### エゴノネコアシに似た虫瘤

枝の中程にあり、矢印の先に脱出用の穴が開いているので虫瘤だと思います。持ち帰って机の上に置いていたら、朽木にすむシベリアカタアリが出



てきました。



### 連理木(れんりぼく)

クリの枝が、親指と人差し指で○を作ったようにつながっていました。枝が癒着してくっついてしまっています。



### 食べられたクチナシの実

実が丸くくりぬかれていました。クチナシの実の柔らかい部分を選んで食べているようです。目立つオレンジ色をしているので食べるものが減ってきた鳥に食べられたのです。



### ヤマユ繭の抜け殻

コナラの枯れ葉が落ちた頃、枝先からぶら下がる葉の陰には、運がよければ、繭がついていることがあります。近くの枝には卵が



ありました。



### キハダエビグモ

体長5ミリのほどの扁平で足が長い蜘蛛です。剥がれかけた樹皮を裏返したら出てきました。暖かい日は這うようにしながら素早く移動する蜘蛛ですが、寒さのせい

**植物** スイセン、ニホンタンポポ一つ、サザンカ、シキザクラ、サルスベリ、クチナシ実・鳥に食われる、葉(オオジシバリ、オオイヌノフグリ、セイタカアワダチソウ、ハコベ、アケボノスミレ)、冬芽(コウバイ、ハナミズキ、コナラ、アラカシ、ヤマモモ、タブ、クロマツ、アカマツ、ヌルデ、タラノキ、コバノミツバツツジ、オニグルミ、ヤマモミジ)、

**昆虫** ヤマユ繭と卵、イラガ古い繭、ムネアカハラビロカマキリ卵のう、オオカマキリ卵のう、ワモンゴキブリ幼虫、泥蜂類巣の一部、ヨコヅナサシガメ冬越しの幼虫、ツクツクボウシとニイニイゼミの羽化殻、アミガサハゴロモに似た外来種産卵痕、コナカゲロウ類幼虫、カミキリ虫類糞と木くず、不明虫瘤(中からシベリアカタアリが出てくる)、

**蜘蛛** ジョロウグモ卵のう、アリグモ死体、キハダエビグモ、**鳥、その他** ミサゴ、メジロ、メジロの巣、シジュウカラ、ヤマガラ、エナガ、コゲラ声、アオジ、ハシボソガラス、カルガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カンムリカイツブリ1、オオバン多、カワウ巣、モグラ塚、イシムカデ、オカチョウジガイ、ウスカワマイマイ、菌類(ヒラタケ、カワラタケ)

次回 3月9日(木) 午前9時30分 水資源機構・P前 雨天中止 参加費100円